

# JTBF通信 財団活動のいま…

## 「公益財団法人日本交通公社」の活動概要

当財団は、一九六三年（昭和三十八年）に（株）日本交通公社（現（株）ジェイティービー）を分離した後、「旅行及び観光の健全な発達を期し、観光関係事業の向上発展を図る」（旧寄附行為）ことを目的に、公益事業に主体的に取り組む組織へと生まれ変わりました。以降、この目的を達成すべく、今日に至るまでさまざまな事業活動に従事しています。

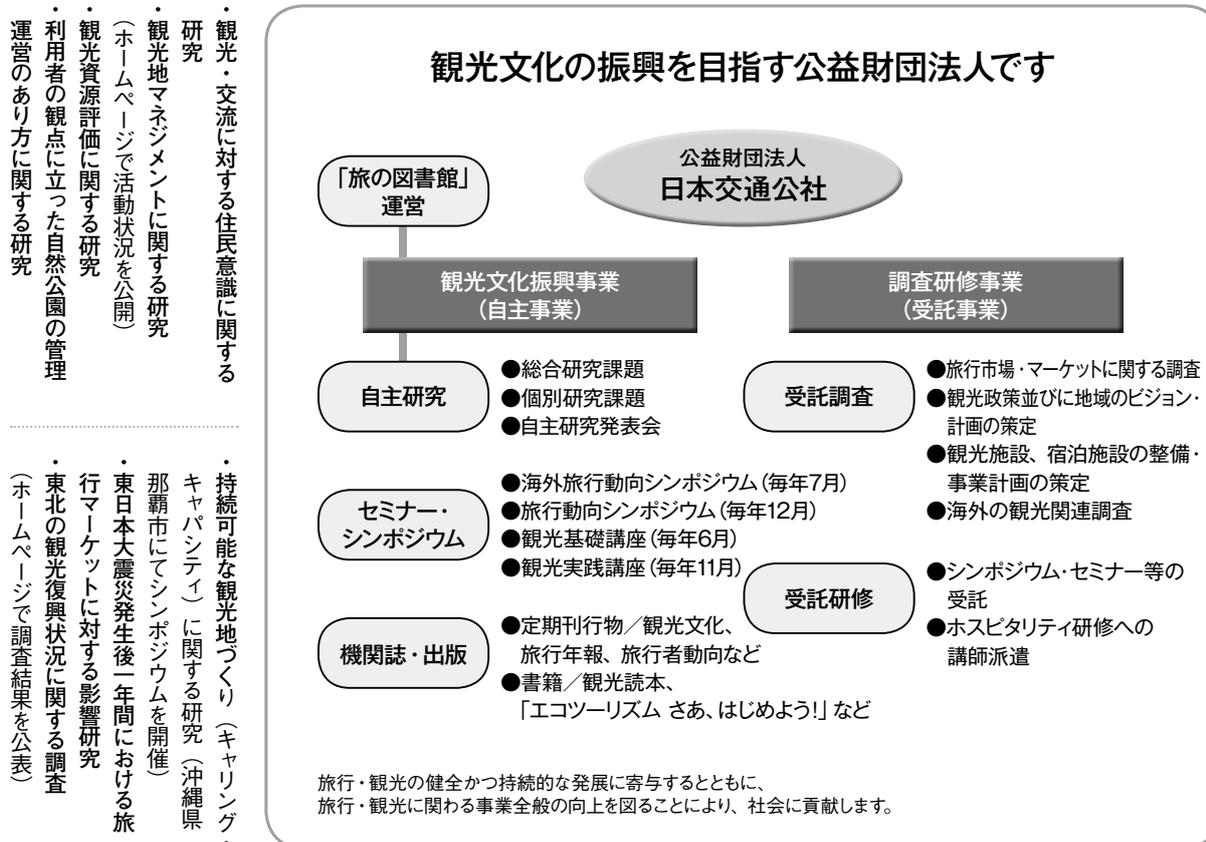
当財団の事業は、大きく次の二本の柱により構成されています。

① **観光文化振興事業（自主事業）**  
当財団の独自財源を活用し、自主研究の推進、主催セミナー・シンポジウムの開催、「旅の図書館」の運営、機関誌『観光文化』や研究

成果をまとめた出版物の発行、観光政策相談室の運営、賛助会員事業、大学での寄付講座（寄付講義）の設置、学会での研究成果の公表などに取り組んでいます。

- このうち、自主研究については、二〇二二年度（平成三十三年度）において、主に以下の研究を行いました。
- ・旅行者動向調査  
（旅行者動向2011）として出版
  - ・海外旅行市場調査（マーケット・インサイト2011）として出版
  - ・旅行市場構造分析研究会  
温泉まちづくり研究会  
（ホームページで活動状況を公開）
  - ・地域における戦略的なインバウンド推進に関する研究（インバウンド推進のツボ2）として出版
  - ・マーケットの先行的トレンド研究  
（先読み！マーケットトレンド）としてホームページで公表

## 観光文化の振興を目指す公益財団法人です



・陸中海岸地域の観光復興に関する基礎調査（ホームページで調査結果を公表）  
・田野畑村の観光復興にかかる支援事業

## ② 調査研修事業（受託事業）

国や地域の観光振興、地域活性化、観光人材育成に資することを目的に、各種事業のお手伝いをしています。

二〇二一年度（平成二十三年度）は、国（観光庁、国土交通省、内閣府、経済産業省、環境省）、都道府県（青森県、東京都、長野県、三重県、鳥取県、沖縄県）、市区町村（神奈川県箱根町、新潟県胎内市、岐阜県白川村、三重県鳥羽市、長崎県佐世保市、大分県由布市、奄美群島広域事務組合）、各種団体、民間企業等の事業に参画しました。

\*これまでの調査研修実績一覧は当財団のホームページに掲載されています。

二〇二二年（平成二十四年）四月の「公益財団法人」への移行後も基本方針は変わることなく、「旅行及び観光の健全な発達と観光関係事業の向上発展に関する事業を行い、我が国の観光文化の振興に寄与する」（定款）ことを目的に活動していく所存です。

その第一歩として、今年度、今後

の具体的な組織運営および事業のあり方を探るべく、十年後の組織の姿を見据えたビジョンおよび次期中期経営計画の策定に取り組んでいます。

（企画課長 牧野博明）

## 観光文化事業部

### 温泉地・温泉旅館の将来を考える

#### 「温泉まちづくり研究会」の運営

観光文化事業部では、研究調査部とともに、日本でも有数の温泉地（阿寒湖、草津、鳥羽、有馬、由布院、黒川）が当財団に一堂

に会し、共通の課題について語り合い、その方向性を探る「温泉まちづくり研究会」を運営しています。

二〇二一年度からは、特に「半歩先ゆくテーマの設定と徹底的な議論、そしてアクション、検証」といったサイクルの実践を重視し、研究会を開催しています。

二〇二一年度は、六月に



「東日本大震災以降、温泉地・旅館に求められている社会的価値（意味）」を、また九月には「温泉地・旅館の長期滞在への対応」について、真剣に議論を行ってきました。二月には、研究会の開催地を栃木県那須塩原市板室温泉「天黒屋」に変え、「アートの精神で取り組む旅館経営」について学び、議論しました。

二〇二一年度は六月に、第一回研究会を、多くの旅館が敬遠しながら「おひとりさま」をテーマに開催。第二次おひとりさまブームの背景や他業種の対応、旅館の取り組み事例、利用者の実態等の調査結果をも

とに、温泉地や温泉旅館の今後の対応について意見を交わしました。

各種の調査結果からは、「社会全体に女性のおひとりさまをポジティブに評価する傾向が生まれていること」、「おひとりさまは今や負ではなく、自分自身の時

間を取り戻すプラスのキーワード」であり、一人を楽しむライフスタイルを身に付けた自立した女性が増えていること」などが浮かび上がってきました。そして議論では、「現在ブームになっている『おひとりさま』は旅館にとっても有望なマーケットになり得る」、「旅館も、一人客といえれば自分の趣味探求を楽しみに旅行する中高年（主に男性）や訳ありの女性の一人客といった従来のイメージを引きずるのではなく、新しい顧客層『おひとりさま』の出現に気づき対応を考える必要がある」と、確認し合いました。

今後も温泉まちづくり研究会では、会員温泉地と当財団が温泉地・旅館の将来について熱く深く徹底的に議論を行い、議論から見えてきた普遍的な価値を世の中に発信し、広く温泉地の魅力づくりに役立てていきたいと考えています。

（主任研究員 吉澤清良）

\*温泉まちづくり研究会の詳細は、同研究会ホームページを参照。http://omachi.jp/  
\*「二〇二一年度温泉まちづくり研究会 デイスカッション記録」などがダウンロード可能です。ぜひ一読ください。